

第 2 回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙①

応 募 者 に 関 す る 情 報

記入日： 2012 年 11 月 29 日

応 募 者 情 報	
応 募	(フリガナ) ヨコハマシ (スイドウキョク)
団体名	(団体名) 横浜市 (水道局)
応 募 担当者 連絡先	団体名： 横浜市
	所在地： 〒231-0017 横浜市中区港町 1 - 1
	部署名： 水道局 事業推進部 横浜の水プロモーション課
	役職名：
	氏 名： 村上 徹也
	TEL： 045-633-0110 FAX： 045-681-6572
	E-Mail： te02-murakami@city.yokohama.jp
ホームページ	http:// www. city. yokohama. lg. jp
<p>応募団体の主たる事業 (※行政の場合は、記入は不要。最大 2000 字入力できます。詳細は別紙添付可)</p> <p>行政のため、記入なし。</p>	

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙②

応募するカーボン・オフセットの取組についての基礎情報 (1次審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙②全体で A4 用紙 3 ページ以内にまとめてください。

※第1回カーボン・オフセット大賞の1次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_data1st.html

1. 応募するカーボン・オフセット活動の名称・タイトル

横浜市オフィシャルウォーター「はまっ子どうし The Water」を活用した、
国際コンベンションにおけるカーボン・オフセット

(カーボン・オフセット認証制度 認証番号：4CJ-1000059)

案件名：2010年日本 APEC 横浜開催における会議場と周辺ホテルでの電力・ガス・地域熱供給・水道使用のカーボン・オフセット)

2. カーボン・オフセット活動の概要

<カーボン・オフセットの分類>

以下の4分類からひとつ選び、□に✓をつけてください。

- 商品使用・サービスオフセット
- 会議・イベントオフセット
- 自己活動オフセット
- 自己活動オフセット支援

<カーボン・オフセット対象・・・バウンダリ>

カーボン・オフセットの取組内容に関して、オフセットの対象範囲をお書きください。

3①-1に記載した算定範囲と同じ

<カーボン・オフセットの取組の実施期間>

カーボン・オフセットの実施期間についてお書きください。

- ①2010年日本 APEC 横浜開催におけるカーボン・オフセット： 2010年7～10月
- ②第5回アフリカ開発会議におけるカーボン・オフセット： 2012年10月～2013年6月（予定）

<カーボン・オフセットの取組に関する情報提供方法>

自社 HP 等、カーボン・オフセットの取組をウェブに掲載されている場合は、URL を記載願います。

- ①2010年日本 APEC 横浜開催におけるカーボン・オフセット
<http://www.city.yokohama.lg.jp/suidou/hamakkodoshi/offset-hamakko.html>
- ②第5回アフリカ開発会議におけるカーボン・オフセット
ウェブページを作成中

3. 1次審査項目

①自らの行動に伴う温室効果ガスの排出量の認識

カーボン・オフセットの取組内容に際して、排出量の算定についてお書きください。

以下、3①～③の欄に、2010年日本APEC横浜開催におけるカーボン・オフセットの事例について記載。
なお、第5回アフリカ開発会議におけるカーボン・オフセットについても、同様の方法とする予定。

(自己活動オフセット支援以外の場合)

①-1 排出量の算定方法及び算定範囲

【算定レベル】

「カーボン・オフセットの対象活動から生じるGHG排出量の算定方法ガイドライン(ver.1.1)」における算定方法のレベル2(活動量はGHG算定対象の活動に固有のデータを用い、排出係数は標準値を用いて計算)により算定
※デシジョンツリーにおいて求められる算定レベルは、レベル2以上(国際会議の場合)

【算定式】

- ①電力: 使用量(kWh) × 東京電力の調整後排出係数(0.000324 t-CO₂/kWh)
- ②ガス: 使用量(m³) × 東京ガスの排出係数(0.00229 t-CO₂/m³)
- ③地域熱供給(蒸気・冷水): 使用量(GJ) × 地域熱供給の排出係数(0.057 t-CO₂/GJ)
- ④水道: 使用量(m³) × 水道(下水処理におけるGHG排出を含まず)の排出係数(0.00036 t-CO₂/m³)
+ 使用量(m³) × 水道(下水処理)の排出係数(0.000479 t-CO₂/m³)

【排出係数とその根拠】

- ①電力: 環境省 報道発表資料 「平成21年度の電気事業者ごとの実排出係数・調整後排出係数等の公表について(お知らせ)」 <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=13319>
- ②ガス: 東京ガス 「都市ガスのCO₂排出係数」 <http://www.tokyo-gas.co.jp/env/gas/category08.html>
- ③地域熱供給(蒸気・冷水): 環境省 「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧(改正後)」 <http://www.env.go.jp/earth/ghg-santeikohyo/material/itiran.pdf>
- ④水道: 環境省 「カーボン・オフセットの対象活動から生じるGHG排出量の算定方法ガイドライン(ver.1.1)」、CFP 関連データ収集整備事業事務局 「カーボンフットプリント制度試行事業用CO₂換算量データベース(暫定版)ver.2.01(エクセル版)」 http://www.env.go.jp/earth/ondanka/mechanism/carbon_offset/guideline/guideline-cmghg.pdf
<http://www.cfp-japan.jp/calculate/verify/xls/kokai-co2kasanryou-db20101214.xls>

【排出量の算定結果】

616 t-CO₂

※気候変動対策認証センター「カーボン・オフセット認証制度」により認証(2011年3月4日に認証取得)

①-2 排出量の算定に利用したデータ種類

電力使用量、ガス使用量、地域熱供給(蒸気・冷水)使用量、水道使用量

②排出削減努力の実施

取り組まれた排出削減努力について該当とする取組に✓をつけてください(複数可)。なお、取組のアピールも含めた詳細については、応募用紙③「1.CO₂排出削減努力と関係者の理解や協力」に詳しく記載して下さい。

- 節電
- 節水
- 廃棄物の減量化
- 省電力機器の導入
- 公共交通機関の利用・呼びかけ
- その他(具体的に)

③オフセットの手続き

<カーボン・オフセットに利用したクレジット等の種類>

使用したクレジット等の種類をお書きください。

CER

<カーボン・オフセットに利用したクレジット等のプロジェクト名称>

使用したクレジット等の具体的な温室効果ガス削減・吸収プロジェクト名をお書きください。

- 【プロジェクト名称】 NorthWind Bangui 湾プロジェクト (国連 CDM 理事会登録番号: 0453)
- 【プロジェクトの種類】 風力発電
- 【プロジェクトの実施国・地域】 フィリピン・Bangui 湾

<カーボン・オフセットに利用したクレジットの無効化に関する状況>

取消、償却実施年月、もしくはその予定についてお書きください。

2011年2月22日に762 t-CO₂のクレジット(CER)を無効化
(独立行政法人国際協力機構(JICA)の管理口座から日本政府の償却口座にクレジットを移転)

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙③

応募するカーボン・オフセットの取組についてアピールポイント (本審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙③全体で A4 用紙 4 ページ以内にまとめてください。

※第 1 回カーボン・オフセット大賞の 1 次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_datalist.html

1. CO2 排出削減努力と関係者の理解や協力

- ①CO2 排出削減努力の項目（内容）について、期待した効果とその成果について具体的かつより定量的にアピールしてください。
- ②CO2 排出削減努力の必要性・重要性について関係者の理解と協力を得るにあたっての工夫とその成果をアピールしてください。

2010 年日本 APEC 横浜開催（以下、APEC 横浜開催）におけるカーボン・オフセットでは、開催期間中の電力などの使用の節約に努めた。また、APEC 横浜開催の会議場（パシフィコ横浜）では、各フロアのフォワイエ照明の LED 化や、トイレ・階段・エスカレーターへの人感センサーの設置などによる省エネルギー化を進め、これらをはじめとした取組により会議センター全体の CO2 排出量のうち年間で 137 t-CO2 を削減した。

また、「APEC 横浜開催におけるカーボン・オフセット」の取組の PR の際に、APEC 横浜開催の会議場（パシフィコ横浜）の省エネルギー化や APEC 横浜開催の期間中の電力などの使用の節約などの削減努力についても同時に PR することを大事にした。

第 5 回アフリカ開発会議（2013 年 6 月開催）におけるカーボン・オフセットにおいても、CO2 排出削減努力やその PR に取り組んでいく。

2. カーボン・オフセットの内容

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組の意義・重要性について、社会にもたらす波及効果などの観点も踏まえてアピールしてください。

今回の応募事業の『横浜市オフィシャルウォーター「はまっ子どうし The Water」を活用した、国際コンベンションにおける』において最も大事にしている点は、「市民参加型」のカーボン・オフセットという点である。APEC 横浜開催におけるカーボン・オフセットでは、「はまっ子どうし The Water」の 2010 年 7～11 月の販売 1 本につき 1kg-CO2 のクレジットを売上げの一部で調達することにより、この取組に参加した市民が「APEC 横浜開催におけるカーボン・オフセット」のオフセット主体となる仕組みにしたことが特徴的な点である（取組内容のイメージ図を添付資料 1 の図 1 に記載）。この仕組みにより、市民が主役となって地球温暖化対策に取り組んでいけることや、一人ひとりの身近な取組でも市民の力を結集することにより大規模な国際会議のカーボン・オフセットを実施できることを市民に伝えることで、市民が今後、自主的にエコ活動を行っていくための一つのきっかけを作れたと考えている。

- ②自らが行うカーボン・オフセットの取組の継続性、展開への意欲や見通しについてアピールしてください。

「はまっ子どうし The Water」を活用した国際コンベンションにおけるカーボン・オフセットの取組として、2013 年 6 月に横浜で開催される第 5 回アフリカ開発会議においても、引き続き、カーボン・オフセットに取り組んでいく。

3. 環境、地域・社会、産業振興等の貢献性

次の①～④のいずれか（複数可）の観点での貢献性についてアピールしてください。

④自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する国際貢献等、さまざまな面での貢献

市民による「はまっ子どうし The Water」購入による「APEC 横浜開催におけるカーボン・オフセット」の取組を PR することで、市民が今後、自主的にエコ活動を行っていくための一つのきっかけ作りとなる普及啓発効果が得られた。また、APEC に参加する開発途上国（フィリピン）におけるプロジェクトで発行された CER を使用してカーボン・オフセットを実施することで、APEC に参加する開発途上国・地域の持続的開発に対する間接的な経済的支援の効果が得られた。

また、「はまっ子どうし The Water」は横浜の水源である道志水源林での市民ボランティアの活動支援のための「水のふるさと道志の森基金」に販売 1 本につき 1 円を充当している環境貢献商品である。「はまっ子どうし The Water」にカーボン・オフセットの取組を付加することにより、商品の認知度や環境配慮のイメージを向上できた。

4. 普及啓発の創意工夫とその成果

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組について第三者である市民に伝え、理解者の裾野を広げ巻き込み、「自分ごと化する」ために行った創意工夫（イベントの開催やツールの開発等）についてアピールしてください。
- ②人々や社会に与えた影響（行動様式や考え方の変化）について、実際に得られた反響も踏まえてその成果をアピールしてください。

「はまっ子どうし The Water」の約 76 万 2 千本の販売（762 t-CO₂ 分）により、延べ約 76 万 2 千人の市民に「APEC 横浜開催におけるカーボン・オフセット」に参加してもらい、この規模の参加者数に対してカーボン・オフセットについて情報発信できたことが最大の普及啓発効果である。市民が主役となって地球温暖化対策に取り組んでいけることや、一人ひとりの身近な取組でも市民の力を結集することにより大規模な国際会議のカーボン・オフセットを実施できることを市民に伝えることで、市民が今後、自主的にエコ活動を行っていくための一つのきっかけを作れたと考えている。

社会に対しては、ウェブサイト（添付資料 2）、ポスター（添付資料 3）、ラジオ CM（FM 横浜、APEC 横浜開催直前の 2010 年 10～11 月に実施）、地元広報誌（タウンニュース、80 万部）、記者発表（添付資料 4、5）などの手段で横浜市から主体的に情報発信するとともに、各種メディア（日本経済新聞、産経新聞、神奈川新聞等）に記事（添付資料 6）として取り上げてもらうことにより、社会に対して更に広く情報発信できたと考えている。

5. ストーリー性

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組についての「魅力」「面白さ」「ユニークさ」などをアピールしてください。
- ②こうした「魅力」「面白さ」「ユニークさ」について、それを第三者である市民に伝えるために行った創意工夫についてアピールしてください。また、低炭素社会の実現にどのように貢献しているのか、アピールしてください。

1. 「市民参加型」のカーボン・オフセット

横浜で開催された「APEC 横浜開催」に対して、会議の主催者がカーボン・オフセットを実施するのではなく、横浜市民が「はまっ子どうし The Water」の購入を通してオフセット主体となってカーボン・オフセットを実施できるよう工夫した（取組内容のイメージ図を添付資料 1 の図 1 に記載）。

2008 年の北海道洞爺湖サミットをはじめ、国内の大規模な国際会議でカーボン・オフセットが実施された例はいくつかあったが、いずれも主催者（北海道洞爺湖サミットの場合は日本政府）の費用負担によるカーボン・オフセットであった。今回の応募事業では、21 の国・地域が参加する「APEC 横浜開催」に対して、開催地の横浜において市民が主体となってカーボン・オフセットを実施したという点が先進的であると考えている。

この取組により、国際的に広く認知された会議である「APEC 横浜開催」を市民に身近に感じてもらうとともに、一人ひとりの身近な取組でも市民の力を結集することにより大規模な国際会議のカーボン・オフセットを実施できることを市民に伝えることで、市民が今後、自主的にエコ活動を行っていくための一つのきっかけを作れたと考えている。

APEC 横浜開催でこの事例を成功させたことにより、今後、他の自治体や企業によるカーボン・オフセットの取組の可能性を広げられたと考えている。横浜市としても、2013年6月に横浜で開催される第5回アフリカ開発会議においても、引き続き、カーボン・オフセットに取り組んでいく。

2. APECに参加する開発途上国・地域におけるプロジェクトで発行されたGERの活用

APEC 横浜開催におけるカーボン・オフセットでは、APECに参加する開発途上国・地域におけるプロジェクトで発行されたGERの調達・無効化により「APEC横浜開催におけるカーボン・オフセット」を実施することで、市民の身近な取組を原資としたカーボン・オフセットの取組によって、CO2排出削減の効果だけでなく、APECに参加する開発途上国・地域の持続的開発に対する間接的な経済的支援に繋がるように工夫した（イメージ図を添付資料1の図2に記載）。

以上に記載された取組について別途説明資料がございましたら、PDFの場合はメールでお送りいただくか、現物資料を郵送ください。

また、公開可能な商品・サービスの様子がわかる写真を（JPEG等）お送りください。

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙一式 送付先およびお問い合わせ先

カーボン・オフセット推進ネットワーク事務局

（担当：入山、井上）

〒東京都港区芝公園 3-1-8 芝公園アネックス 7階

電話 03-5776-1223 ファックス 03-5472-0145

E-Mail award@carbonoffset-network.jp